

台灣宜蘭

Blihun

漢本

遺跡

千年

の至芸

2025[令和7年]

9.20^{SAT}_[土] ▶ 11.24^{MON}_[月・休]

関連講演会

はんぽん

「Blihun漢本遺跡の文化を探る」※要申込

【日時】2025年10月12日（日）午後1時半～午後4時

【会場】西都原考古博物館1階ホール

【講演】朱正宜（樹谷生活科学館館長）

観覧
無料

共催：中華民國宜蘭縣立蘭陽博物館
協力：傳作新・薛宏彬

本展示会は中華民國文化部による博物館事業推展補助金の交付を受けて実施します。

千年の至芸

台湾宜蘭

Blihun漢本遺跡

台湾北東部の宜蘭県、黒潮洗う太平洋を臨む沿岸で発見されたBlihun漢本遺跡。

台湾鉄器時代の建物跡や製鉄炉などの遺構、山海の幸や交易品などの豊富な出土品を誇るこの遺跡は、台湾で8番目の国定考古遺跡に指定された。

「Blihun」はタイヤル族の言葉で「扉」を意味する。和平川の河口に立地するBlihun漢本遺跡は、亜熱帯林への入口であると同時に、大海を通じた外界への出口でもあった。

この展示会では、本邦初公開となる160点あまりの出土品を紹介し、千年にも及ぶ台湾鉄器時代の歴史をひもとく。

I. 炎を操る匠たち

Blihun漢本遺跡では石を組んで作った特殊な遺構が発見された。鉄などの金属の精錬に用いた炉である。実際に遺跡からは金の装飾品、青銅製品、鉄製品などが多く出土し、金属加工・冶金技術に長けた人々がいたことを物語っている。

II. 黒潮と亜熱帯林の恵み

海岸に営まれたBlihun漢本遺跡からは、魚介類や海生哺乳類の骨などが食糧残滓や加工された道具として多く出土した。また、シカ・イノシシに加え、ウンピョウやタイワンカモシカなど台湾特有の陸上動物に関連した遺物も豊富である。

III. 石敷きの村落と人々の交流

Blihun漢本遺跡の村落・住居は石を部材として多用した。残された土器などから、この村の人々が台湾の北西部・南東部と盛んに交流した様子がうかがえる。また、瑪瑙製品のデザインは東南アジアに源流を持つ可能性もある。

IV. 祈りのかたち

遺跡からは多くの墓も見つかった。良好に保存された人骨の副葬品からは、彼らの宗教観や他界観も垣間見ることができる。また、様々な道具のそこかしこに民族のアイデンティティや馴染み深い生き物の意匠が凝らされる。



青銅製人形刀柄



鹿角製人形刀柄



脚付有肩壺



金製装飾品



イヌ形石製品

† 国際交流展関連 体験講座 †

台湾の金属飾りを作る

令和7(2025)年10月26日(日)

Blihun漢本遺跡の出土品をかたどった金属製のアクセサリを作ります。

※要申込

令和7(2025)年度 展示会情報

企画展

古人骨



令和7(2025)年12月13日(土)

～令和8(2026)年2月23日(月・祝)

企画展

学史に名を刻む

～宮崎の標式遺跡～

令和8(2026)年

3月14日(土)～5月17日(日)